

平成 20 年度宮前区区民会議
宮前区の宝さがし～ときめき再発見～部会（第 2 回）摘録

日 時 平成 20 年 7 月 15 日（火）午後 6 時から 7 時 50 分
会 場 宮前区役所 4 階第 2 会議室
参加者 高木委員、河井委員、恒川委員、千葉委員、松井委員、渡辺委員、（以上、部会委員）
永野委員長、（オブザーバー）
事務局 田邊企画課長、中山同主査、成沢職員、岩下研究員（コンサルタント）

1．開会（田邊企画課長）

- ・会議公開について説明し、委員が了承した。
- ・欠席：鈴木和子委員、川島委員 遅刻：渡辺委員

2．議事（進行：高木部会長）

（1）今後の審議の進め方について

資料 1・2（別紙参照）の説明を事務局が行い、今後の部会の審議の進め方について、委員が概ね了承した。主なコメントは以下のとおり。

永野委員長 区民会議の審議の目的は区の地域の課題を取り上げ、その解決策の提案を行なうことです。前回の部会はフリートキングで自由に話しましたが、今回からは区民会議の目的等を委員全員で踏まえながら審議を進めます。

高木部会長 本筋を忘れずに議論を進められれば良いと思います。今期はじっくり 2 年間のスパンで見えていくという提案については、どうでしょうか？

恒川委員 賛成です。

永野委員長 全体としては 2 年をかけるのですが、審議を進める中で見えてきたものがあれば、その都度報告や提案をしていければ良いと思います。審議を進めていく中で自然に見えてくると思います。

事務局 もう一つの部会（公園・地域づくり部会）でも、途中で報告や提案も行いながら、最終的なまとめまでは、2 年間をかけてということになっております。

高木部会長 （2 年間かければ、）区民会議で話したことが、地域や活動団体に波及していく過程も見ながらの提案もできてくると思います。

（2）宮前区の宝をさがす目的について

資料 3 の説明を事務局が行い、意見交換した。

恒川委員 宮前区は自然が豊かだとされ、ガーデン区などのアピールをしてきましたが、資料 6（市民 1 万人アンケート・平成 15 年）を見ますと、「自然が豊か」と自区をイメージしている区民の割合が高津区や麻生区に負けています。「歴史的ある」とイメージしている割合も随分低いです。

松井委員 「宝の持ち腐れ」という言葉あるように、宝はあっても磨かないと光らない、宝を活用しなければならぬということだと思います。

私は平瀬川に関わる活動をしています。川も宝です。暗渠部分が多いあんな川でも、人が集まったり、子どもたちの学習のフィールドになったり、歴史の勉強をしたりできます。シンボルがあることによって地域がつながりやすくなり、コミュニティが活性化されます。宝物に上手に関わると、市

民が豊かになり、市民同士が支えあうことができるようになると思います。

河井委員 宮崎台の地域住民は NEC 研究所跡地周辺の自然を地域の宝だと思っていましたが、それが失われる開発が計画された時、「せめて歩道に緑を再現して」という要望を出し、この辺りでは珍しいベニバナトチノキが街路樹として整備されました。地元にもお願いしてシバザクラも植え、住民たちはこれをすごく大事に、自分達で手入れをしています。

ところがつい最近、この二本が弱ってきてしまい、よく見るとゴマダラカミキリが発生していました。公園事務所にすぐ連絡をし、地域にも「カミキリムシを見つけたらすぐ捕殺して下さい」と連絡したら、それまであまりコミュニケーションがなかった地域の住民がすぐに団結しました。自分達が植えてもらった木であり、地域の宝物で、みんなで大事にしていこうという意識が共有されていることをすごく感じました。

コンサルタント 地域の宝物を共有する意識があったことによってコミュニケーションも進んだということですね。

河井委員 そうです。元は開発問題でまず結束しました。それまでは共通の話題がありませんでした。開発が終わった後はその緑を守っていこうということで、コミュニケーションが進みました。

松井委員 行政が地域住民の知らない内に植えていた緑であれば、そのような関わり方はしなかっただろうと思います。

河井委員 地域のみみんなでどんな街路樹が良いか議論を重ねた経緯がありました。まちめぐりもして、新百合ヶ丘にあるベニバナトチノキを見て「これが良いね」、行政側も「これなら地元で管理もできるでしょう」ということになりました。単価が高い街路樹で、もし枯らしてしまった時はすぐには替わり植えてもらえないだろうという話もあり、意識が更に高まりました。大事に思う気持ちがあるから早期発見と素早い対応ができたのであり、そうでなければ駄目になっていたかもしれません。行政の方にも素早い対応をしていただき、近日中に消毒作業をしていただけると聞いています。

恒川委員 宮前区を歴史的に調べてみると、大山街道、野川地域の由緒ある寺社、あるいはたくさんの遺跡が発掘されています。これらは全て宮前区の財産ですが、一般にあまりに知られていないのではないかと。観光協会として、もっと PR すれば他のまちから観光客が来るように発展できるのではないかと思います。

また前回、発展には子供たちの参加、地域で一緒になって課題解決を進めていくことが大事だという話がありました。小学校や中学校とタイアップしていくことが鍵であり、何をやってもらうかの議論も必要だと思います。

松井委員 宝物のタイプとして、二つあると思います。一つは先ほどのようにみんなで植えたり、世話をしているような緑のように、区民がつくりあげていくもの。もう一つは、歴史としてあるもの。宮前区の縄文遺跡はすごい文化遺産です。法改正の前に発掘され、埋められてしまったので、見えない物になってしまっていますが、学芸員の方に聞くと、これが今出たら大変なことだ。三内丸山遺跡に匹敵するような価値が稗原の遺跡にはあるんだよということでした。

高木部会長 宝物には有形・無形など様々なものがあります。宮前区として宝物を持つことのメリットなど、視野を広げて考えていきたいと思います。何が宝物なのかイメージが薄い、知られていないものがたくさんあるということですが、イメージアップのためにも宝物が必要ということでしょうか。

恒川委員 先ほどの資料 6（市民 1 万人アンケート・平成 15 年の結果）を見ますと、宮前区が唯一トップになっているのが、区のイメージが「とくにない」と回答した人の割合です。みんながこんなものが良いという言いながら、緑の回廊も売りにしていながら、こういう結果が出てしまっていま

す。PRの問題や解決手順の示し方にも関わってくる問題だと思います。

高木部会長 宮前区は「住みやすい」というイメージがあり、「ガーデン区みやまえ」というキャッチコピーもあります。

恒川委員 人口のデータを見ると、子どもの出生数も多く、高齢者も多いようですが、一番の問題は、これは市全体に言えることなのですが、現役時代に都内の会社に通勤するためには良い住宅地ということで、終の棲家としてはどうかということ、どうもイメージが落ちてくるのではないかと。「宮前区に住んで良かった」「終の棲家にしたいね」となるように導いていくということが重要だと思います。「ガーデン区みやまえ」の哲学もそうであったと思います。「こういう良いところ」があるよと並べるだけでなく、手順を考えていかなければなりません。

松井委員 専門家ではないので、感覚的なものですが、風水的に見ても、宮前区は他区と比べて非常に良いように思います。縄文時代の遺跡があるということも地勢が良いということだと思います。風や水の流れが素晴らしいと思います。

渡辺委員 宝や顔があるメリットは、愛するものがあるということだと思います。最終的には「ラブ・宮前」、地域の子供からお年寄りまでが我がまち、我が地域を愛する気持ちがわくことが大切だと思います。

(3) 宮前区のイメージについて

(4) 現状の宮前区の資源について

資料4～6(別紙参照)の説明を事務局が行い、意見交換した。

高木部会長 資料6を見ますと、各区のイメージが的確に捉えられていそうです。例えば「自然が豊か」の上位は麻生区、多摩区に次いで宮前区となっていますし、「文化・芸術がある」は麻生区がトップですが、これは「芸術のまち・新百合ヶ丘」のイメージが現れているのだと思います。「工場・コンビナート」では川崎区が断トツです。「歴史的な史跡が多い」では、どの区もそれほど割合が高くなく、目に届いていない部分かと思います。「将来性がある」では宮前区は麻生区に次いで2位で、まだまだ住んでいる方々に活力があるという見方もできます。

千葉委員 (私の関わる宮前ぽーたろう以外の)他のポータルサイトのことはよく知らないのですが、知り合いのスーパー経営者の方に聞いたのは、宮前区には地域密着のお店が多いということで、そういったことからポータルサイトが多いのかもしれませんが、資料5の中にペット業界のパイオニア的店舗がいくつかあるという話もありましたが、横浜や東京からもアクセスがしやすく、比較的家賃が安いということで宮前区に出店を決めた店が結構あると思います。

高木部会長 宮前区は東名高速道路で地域が分断されている背景もあります。資料5で紹介されているのは区内でも田園都市線沿線のイメージであり、向ヶ丘地区が置き去りにされている感があります。

事務局 外から宮前区を見たときに、まず田園都市線沿線という印象があると思います。実際に住んでいらっしゃる方との認識とはギャップがあるかもしれません。歴史的にも宮前村と向ヶ丘村は高津区になり、そこから更に分区され宮前区になったという経緯があります。

高木部会長 ただ住環境が良いだけでは駄目で、そこから本当の豊かさが何か突き詰めていくと、地域とのコミュニケーションなどに関心が移りつつあるのかなと思います。

恒川委員 イトーヨーカドーが多摩プラザに出店しましたが、あれは元々は鷺沼に出店する計画だったところ、地元の商店街から反対を受けて断念したと聞きました。地元住民がどういうまちづくりを望むかということも重要です。例えば浅草は地元が「電車が通るのは嫌」といったから、今の状態が

あります。後藤さんが最初この地域の開発をアメリカ式で高速道路を軸にと考えていましたが、うまくいかず、鉄道に切り替えたということもあったのではないかと。

これからは、宮前区の高齢者の定住率をあげていくようなまちづくりが必要だと思います。昨年東急電鉄の方と話した時もこれからは、宮前区内3駅の利用者を増やしていくような方向でなければならぬと言っていました。また、青葉台の住宅地としての人気は鷺沼よりも高い理由が気になります。終電などは鷺沼止まりで、ある意味では鷺沼の方が便利だと思います。

高木部会長 青葉台は駅のすぐそばに閑静な住宅地があり、商業施設も駅周辺ですごくまとまっています。宮前区は良くも悪くも「閑静な住宅街」というイメージが強いです。これはもしかしたら、地域とのコミュニケーションと反対のイメージになるかもしれません。イメージアップを目的とするのなら、この辺りも戦略的に考える必要があります。

恒川委員 資料5でいくつかお店などの紹介がありましたが、私の周りから聞こえてくるのはむしろ「宮前区はお店がない」という声です。

高木部会長 資料6でも「繁華街」のイメージが宮前区は最も低くなっています。駅の周りにはお店はありますが、少し離れるとなかなかない。郊外にしゃれたお店が少ないイメージがあります。

永野委員長 宮前区の区づくりプランは「住み続けたいまちを目指そう」という構想でした。ところが20年以上住んでいる人の割合が17.6%で他区と比べて低いという統計があります。私も時々聞くのは、宮前区の住民は転勤などがあるとすぐ出て行ってしまうということです。多様な人がおり、新しい人が入ってくるのも良いのですが、故に区としての顔が見えにくくなっている。かっこいいお店やおしゃれなスポットがあるというのは短期間住むには良いかもしれませんが、我々が目指したいのは住み続けるまちであり、宝物をさがすことによって宮前に来た様々な人々が共通の意識でまちをつかっていくということだと思います。

松井委員 宝物には様々な概念があります。例えば「川崎大師」などは誰が見ても認めるすごい宝物です。しかし一見何もない殺伐とした地域でも、何か地域に誇りを持ちたい。地域を愛することで何かを育てたい。例えば広場でお祭をする。地域資源への関わり方で地域で誇れるものをつくり、宝物にしていく。元々あるものが全てではなく、それを活用していくことでいきいきとした豊かな暮らしを営んでいく。そのためにはその地域の方に資源の掘り起こしをやっていただくことが重要だと思います。グリーンフォーラムでも中学校区毎のマップづくりなどの土台づくりをしています。小地域の中で多くの区民が参加して進めていくことが地域の宝物を共有していく方法だと思います。

高木部会長 川崎区では「区の宝物」として、7つのジャンルで138の区の宝物をあげ、ホームページ上にも載せています。施設や散歩道、産業遺産やお祭など様々なジャンルがあります。また、多摩区には磨けば光る多摩事業という事業があります。

宮前区は歴史的にも、地理的にも、二地区に分断されているという話もありますが、それぞれの文化の違いもうまくまとめていけるような宝探しができると思います。

河井委員 先日市の「わがまち花と緑のコンクール」があり、私の団体は第1回で大賞をいただいて以来出場していなかったのですが、ぜひということで出ましたら、最高得点獲得ということで、審査委員特別賞をいただきました。「宮前区のガーデニングはすごすぎる」という評価もいただきました。新しくいらした方がガーデニングを通して、近所と苗を交換するなどの交流が始まっている地域の例もあります。

高木部会長 ある地域の活動やイベントを宝物として取り上げる方法もあると思います。宮前区のガーデニングは手づくり感の部分がすごく評価されている部分があると思います。川崎区の宝物では、一

つの資源から複数のキーワードが引き出せるような整理がされています。このように宮前区でもこれまでの資源の資料を整理しなおす、使いやすくしていくことで宝さがしをするば、見えてくるものもあるかもしれません。

永野委員長 人がつくっている活動やイベント、人のつながりが宮前区の特徴でもひとつだと思います。人のつながりも宝物と言えると思います。他の区にはないような人のつながりがあると思います。

コンサルタント 皆様のご意見を聞いていますと、区外からも広く認知されるような宝物というよりは、むしろ地域の中で今あるものを共有、活用していく。それが定住につながる。それが宝物である。

「川崎大師」は有名で、歴史があり、集客力があり、誰がどのような視点から見てもおそらく評価が高い宝物なのだと思いますが、この部会で言う地域の宝物は必ずしもそうである必要はなく、地域本人が宝物と言えれば、宝物になる。他のまちと同じものでも、地域にとってはすごく価値のあるものになりうる。この辺りが宝物を持つメリットとも関わってくると思います。

松井委員 宮前区には都市農業もあります。これをどうやって守り、大事にしていくかという課題もあります。住民と農業がうまく関わっていくことが必要です。また、宮前区には多くの神社があり、最近お祭りが復活しているような動きもあります。私の地域でも菅生神社のお祭りで地域の人達が芝居をしたり、学校の先生も参加して、地域のコミュニティをつなぐ核となっています。宝物を活用するフィールドは宮前区内にはたくさんあります。東名高速道路の IC 付近でも景観ガイドラインづくりが地元の町会や企業の協力を得ながら、昨年からは始まっています。

渡辺委員 目に見える宝物と目に見えない宝物ということも言えると思います。会社にはそれぞれの企業風土がありますが、ある人が会社を辞める理由というのは人間関係が最も多いです。仕事が忙しくても、人間関係がよければ案外辞めることは少ない。まちも同じです。人と人の関係がうまくいってれば、多少不便があってもそこに住み続けると思います。こういう目に見えない宝物も大事にしなければならぬ。宮前区の良い風土をつくり、育てていきたいと思います。

恒川委員 まちの木一本でもみんなで守る宝物になる。資料7では県や市の名木に選ばれた木がたくさんあげられています。宮前区の資源の100選を地域の学校などに呼びかけながら選出していく、それをマップづくりなどにつなげていく方法もあると思います。

永野委員長 区民みんなが関われる解決策ということを今期は重視したいと考えています。例えば、宮前区100選を選ぶなら、区民みんなで投票したり、区民から募集するような形をつくっていきたくて考えています。

恒川委員 みんなが参加していけるような形を積み重ねていきたいですね。

松井委員 みやまえグリーンフォーラムでは中学校区ごとの緑の状況をマップに落とし、これをより多くの目に、小中学生にもわかる形で表現していくプログラムに地域で取り組んでいます。

永野委員長 鈴木委員のご近所サークルの活動は地域の要支援者の為にと始めた活動ですが、要支援者も運営に関わり、特技を活かしています。このような課題解決の形が重要です。

高木部会長 この部会には「～ときめき再発見～」という副題がありますが、自分達が忘れてしまっていたものも思い出しながら、区全体としても統一性のあるものをつくりあげていきたい。第1期でもコミュニケーションに着目しましたが、具体的な解決策まではなかなか至りませんでした。この部会では、自分達も地域の宝さがしに関わりながら、もう一回ときめいてみよう、そのことによって宮前区が活気ある、豊かな地域として蘇るのではないかな。そんな思いがこめられていると思います。

松井委員 宮前区全体で共有するものも必要かもしれませんが、ある程度各地域にまかせ、そこから出てきたものがまず重要だと思います。

高木部会長 恒川委員のおっしゃられた百選というの、それぞれの地域から選んだ、出していただいたものを区全体で共有していくということだと思います。まず身近なものを探していくということから始まるのが重要です。

松井委員 向ヶ丘地区がなおざりではないかという話がありましたが、区づくりプランをつくる際に、人口増加率がもっとも低かった初山地区の緑が素晴らしい、これを大事にしなければならないという話が出て、後の飛森谷戸の活動に繋がっています。なおざりもうまく使えば武器になります。

高木部会長 区全体で統一したイメージを必ずしも持たなくても良いですが、互いの資源の情報をやりとりできるような仕組みはあった方が良いでしょう。

恒川委員 これまでも宮前区の資源はガイドブックなどの形で度々紹介されてきています。その意味では課題解決の切り口をよく考えて工夫していかないと、二番煎じになってしまう恐れがあります。

高木部会長 「ときめき」という言葉を入れた意味はそこにもあると思います。

松井委員 菅生小学校では平瀬川の歌を学校中で歌い始めています。CD もつくり、1年生から6年生まで何度も練習し、保護者にも聞いてもらっています。向ヶ丘小学校でも楽器で演奏をしたり、歌ったりし始めました。菅生の中学生がつくり、校長が作詞した曲ですが、こうした曲を地域のふるさとの歌として、宝物として広めていきたいという動きが生まれています。

事務局 この部会の中には、生まれが宮前区でない方もいらっしゃると思いますが、ご出身のふるさと自慢と言った時に、まず頭に浮かぶものは何でしょうか？宮前区で生まれ育った人が、ふるさと自慢と聞かれた時に浮かぶようなものが、宮前区の顔、宝物と言えるかもしれません。

高木部会長 さきほどコンサルタントの方も指摘されたように、今日の議論はどちらかという内からの視点が多く、区外からの視点に欠けた面があったかもしれません。

松井委員 中から掘り起こして、外に発信していくということも大事だと思います。行政的に政治的にとなると違うアプローチになるのかもしれませんが。

高木部会長 宝さがしをして、宝が何かある程度決まってきた、ではそれをどういうふうを活用するかという段階になってくれば、自然と外からの視点やイメージも取り入れていかないといけない部分が出てくるのだと思います。

河井委員 外からのイメージでよく聞くのは学校のレベルが高いということです。

高木部会長 それはよく聞きますね。

河井委員 転勤で出て行ったとしても、また戻ってきたいという声も聞きます。

高木部会長 伝統的なものなののでしょうか。それともつくられたものなののでしょうか。

恒川委員 不動産屋によれば、帰国子女の受け入れ校とうことがあるといことも大きいと聞きました。

河井委員 駐在員の間では世界的に知れていて、この地域を選んで帰国する方も多いと聞きました。

事務局 私は生まれも育ちも中原区なのですが、その視点から見た宮前区のうらやましい点は、良好な住宅街があり、そこからちょっと歩くと「農」があり、いちご狩りができたり、なしもぎができるような農地がある。これは非常に恵まれた環境であり、このまちの良いところだと思います。

松井委員 まちづくりの交流会で幸区の方々を招いた時にいちご狩りなどを体験させたら、非常に驚き、喜んでいました。

事務局 もしかしたら、こうした良さにまだ気がついていない人が多いのではないかと思います。

松井委員 (気がついていない人が)たくさんいます。

事務局 ときめき再発見の余地がたくさんあると思います。

渡辺委員 私はお中元に宮前のトマトやなしなどを送ります。非常に喜ばれています。県で一番をとっ

た農家もいます。

松井委員 宮前区は市内で農地面積も農業従事者も一番多かったと思います。

高木部会長 ただこの辺がまだまだ情報共有されていない部分だと思います。自分の区内でいちご狩りができることを知らない人が多い。ポータルサイトなどもまだ限られた情報しか載せられていない面があります。

松井委員 地域の学校など、たくさんの人にいろいろ教えている農家の方、地域とふれあっている農家の方もいます。こうした活動が広がっていくと良いと思います。

高木部会長 次回はこのあたりも議論を深めたいですね。先ほど恒川委員の言われた子どもを巻き込んでいく方法も深めたいです。

事務局 議論を深めていく中でまずこの中で共通の認識を持っていくことが重要だと思います。第2回としてはよい話ができただけではないでしょうか。今日までの議論の流れをまとめたものを、これまでの経過として全体会の第2回に部会長さんから報告していただければと思います。

コンサルタント 今期は2年間という中で、時間をかけてしっかりやるということで、これまでの議論を一度今度の全体会にかけ、全体会からの意見もいただいて、今後議論が課題解決策の検討の段階に入った後も、立ち返って戻れるような、ベースとなるものをまずしっかり共有していく作業を丁寧に進めていきたいと思います。

3. その他

- ・ 第3回以降の部会の日程については、8月3日開催予定の第2回全体会議以降、9月中旬以降を目処に日程調整をしていくことで合意した。
- ・ 全体会への報告内容については、事務局で本日の議事録等まとめるものを踏まえて、部会長との協議で進めるものとした。